

日本物理学会誌は会誌編集委員会の依頼による寄稿と、会員からの投稿とからなる。その採否は会誌編集委員会で決定する。また、内容、表現などについて会誌編集委員会が修正を依頼することがある。原稿は原則として電子データとする。

1. 各欄の主な内容と執筆要領

以下の刷上りページ数には本文のほか、図表およびリードページ(1ページ)を含める。1d, 1fには著者紹介を、また1a, 1d~1oの著者が非会員の場合は非会員著者の紹介をつける。

1a. 巻頭言(3段組:刷上り1頁)

日本物理学会長等、日本物理学会の運営に対して責任ある立場の人が物理学会の現状、方針等についてその所信を述べる。原則、依頼原稿とし毎月掲載する。

1b. 最近のトピックス(2段組:刷上り2頁)

国内外の物理学の最近の大きな発見や発展を速報として紹介する。著者自身の成果の発表の場ではない。著者名と所属は末尾に掲載する。

1c. 現代物理のキーワード(2段組:刷上り2頁)

物理学の現状を読み解くため、あるキーワードを中心として、周辺も含めた研究の動向を紹介する。他領域研究者や学部学生にも分かるよう平易な筆致で紹介する。国外の研究動向を紹介してもよい。著者自身の成果の発表の場ではない。著者名と所属は末尾に掲載する。原則として毎月掲載する。

1d. 交流(2段組:刷上り5~9頁, リードページ・英文抄録・著者写真・著者紹介有)

細分化の進んだ各分野間の理解を深めるため、また初学者の啓蒙のため、厳密さを多少犠牲にしても各分野の現状、特に興味のある点、近い将来の問題点を平易に説明する。

1e. 特別企画

編集委員会の企画により、特集、講座、座談会等を取り上げる。執筆要領はその都度定める。

1f. 解説(2段組:刷上り5~9頁, リードページ・英文抄録・著者写真・著者紹介有)

1つの主題について、専門外の会員に対する入門的な説明から説き起こし、専門的な最近の成果まで解説する。原著論文発表の場ではない。

1g. 最近の研究から(2段組:刷上り3~5頁, リードページ・英文抄録有)

最近の重要な研究の中から、なるべく広い範囲の会員が興味を持つ話題を取り上げて紹介する。特に専門外の会員にも研究の要点が分かるように書くことが望ましい。

1h. 実験技術(2段組:刷上り2~8頁, 4頁を超える場合はリードページ・英文抄録・著者写真有)

広い範囲の人々にとって興味のある実験法について、その原理と技術上の問題点、それが貢献できる物理の分野などを明らかにする。

1i. 話題(2段組:刷上り2~4頁)

広く会員の関心をひくニュースや話題、大型実験装置の立ち上げ報告、多くの会員が興味を持つ国際会議やイベントの報告、物理で説明できる身近な現象、珍しい実験結果や計算結果などを紹介する。原著論文を発表する場ではない。

1j. 物理教育は今(2段組:刷上り1~4頁)

物理教育の改革に役立つよう、会員に教育の現状と問題点、海外事情、改善に向けた取り組みなどを紹介する。新しい教育方法の実践、物理学の授業で使用している演示用実験器具、ビデオなどの教材も紹介する。

1k. JPSJの最近の注目論文から(2段組:1つの論文につき刷上り1頁)

毎月のJPSJ掲載論文(レター論文、本論文および招待論文)の中からJPSJ編集委員会が選んだ注目論文を取り上げる。研究の背景と意義、その内容の簡単な説明をする。原稿は、論文の著者の原案をもとにJPSJ編集委員長が書く。

1l. PTEPの最近の招待・特集論文から(2段組:1つの論文につき刷上り1頁)

毎月のPTEP招待・特集掲載論文を紹介する。研究の背景と意義、その内容の簡単な説明をする。原稿は、論文の著者の原案をもとにPTEP編集委員長が書く。

1m. 歴史の小径(2段組:刷上り1~2頁)

物理学史上の様々な話題をあまり専門的でない読み物として掲載する。

1n. ラ・トッカータ(2段組:刷上り1~2頁)

今までの欄に収まらない人間的な事柄や、普通の解説書には見られない研究上のテクニックなどを紹介する。若手研究者の海外滞在体験記、大学訪問記、夏の学校報告などを紹介する。原則として依頼原稿とする。(欄名の由来は「触れ合い」を意味するイタリア語。)

1o. 談話室 (3段組：刷上り1~2頁)

会員にとって興味ある話題，研究・教育に関するちょっとした事柄，随筆，シニアな先生から若手へのアドバイス，会員の動静などを掲載する。

1p. 新著紹介 (3段組：1つの書籍につき刷上り1/4~1/2頁)

- 1) 内外の新しい出版物の中で，特に会員の興味をひくと思われるものを紹介し批評する。
- 2) 書き方は最初に著者名，題名，出版社，出版地，出版年，頁数，サイズ，価格，叢書名などを記載する。

例：F. Scheck

Mechanics

Springer-Verlag, Berlin and Heidelberg, 1990, xiv+431p, 24×16 cm, 本体9,520円

- 3) 批評に対する原著者の反論は，原則として1回掲載することができる。ただし，刷上り1/2頁以内とする。

1q. 学界ニュース (3段組：刷上り1/4~2頁)

物理学コミュニティにおける主なニュースを取り上げる。会員の受賞なども含める。受賞記事の掲載基準については別に決めるガイドラインによる。

1r. 追悼 (3段組：刷上り1/2~1頁)

- 1) 物理学の各分野への貢献の大きかった会員，名誉会員。
- 2) 日本物理学会の運営に貢献の大きかった会員，名誉会員。
- 3) 日本の物理学界に貢献の大きかった内外の物理学者および関連分野の学者。

1s. 会員の声 (1,500字以内)

- 1) 広く会員にとって関心があると思われる話題についての個人的な意見や感想を述べた投書を掲載する。
- 2) 採否は編集委員会での議論を踏まえ，委員長が判断する。その内容に関する責任は投稿者が負う。

1t. 掲示板 (500字以内)

- 1) 人事公募，学術的会合の予定，助成金の公募，その他の通知などを掲載する。その配列は所定の様式による。
- 2) 掲載希望の原稿は毎月1日締切とし，原則として翌月号に掲載する。ただし，1月号，2月号は前々月の20日締切とする。また，掲載にあたり字句の修正を行うことがある。
- 3) 原則として投稿はWebフォームおよびFAXによる。
- 4) 内容に関する責任は投稿者が負う。

2. 原稿作成上の注意

2a. **用紙と字詰め**：A4判用紙に横書きとする。原稿は各欄に応じて3段組または2段組で掲載され，刷上り1頁あたりの目安は図表がない場合，3段組が17字×49行×3列，2段組が26字×49行×2列である。

2b. **長さについて**：指定枚数を超過した場合には原則として短縮を求める。ただし，図・表等は指定枚数に含める。

2c. **書き方**：電子データを原則とする。黒色，横書きとし，専門用語以外は原則として常用漢字・新仮名づかいを用いる。不必要な外国語の使用は避ける。外国語の固有名詞のうち『文部省学術用語集 物理学編』に掲載されているものは原則として片仮名を用いる。

2d. **術語について**：日本語として十分定着している術語はそれに従う。そうでないと思われるものはカッコ内に原語を付記する。専門分野にしか通用しない略語には説明をつける。また，単位については原則としてSI単位を用いる。

2e. 字体の指定

- 1) 印刷すべき本文以外の指定や注意書きはすべて赤で書く。
- 2) 指定がない場合は原則として本文は立体，数式はイタリックで印刷する。本文中でイタリックにすべきもの(物理量を表す記号・変数・物理量や番号を表す添字など)は，例えばRは \mathbf{R} のように，文字の下に $\underline{\quad}$ と赤で指定する。数式中の立体にすべきもの(演算記号 $[\log, \ln, \sin, \exp(e), \lim, d$ (微分), $\text{Re, Im, Tr}]$ ・虚数単位 $[i, j]$ ・元素記号・単位・言葉の意味を表す添字など)は，例えばlogは $\overline{\log}$ のように， $\overline{\quad}$ と赤で指定する。
- 3) 文中ボールドとすべき文字(表題・セクション名・文献などの見出し，特別な文字など)は文字の下に $\underline{\underline{\quad}}$ と赤で指定する。ボールド・イタリックとすべき文字(ベクトルなど)は $\underline{\underline{\quad}}$ と赤で指定する。
- 4) ギリシア文字は明瞭に書き，ギ(赤)の記号で指定する。花文字は花(赤)，テンソルはサンセリフ(赤)と指定する。
- 5) 数式は印刷に便利のように注意し，特に文中に式を挿入する場合には a/b , $\exp(t/r)$ のような表記法を用いる。二重添字，eの肩にのる字の添字などは避ける。
- 6) 添字・本文中の文献番号などは赤で \vee , \wedge と上ツキ，下ツキを指定する。
- 7) 0(ゼロ)とO(オー)，1(イチ)とI(エル)， \times (カケル)と \times (エックス)， ϕ (ファイ)と ϕ (プサイ)など紛らわしいものははっきり書き，特に誤りやすい場合には片仮名をつける。C, K, O, P, S, W, X, Y, Zなどのように大文字と小文字の区別が困難なものについては，必要に応じ赤で $\text{\textcircled{C}}$ または $\text{\textcircled{D}}$ と指定する。

2f. **用語解説**：会誌の記事を学生や非専門家にもわかりやすくするために，専門用語などに関しては用語解説の項を設けて簡単な説明をすることが推奨される。ただし，解説すべき用語の数が少ない場合などは，脚注を使って説明してもよい。

- 1) 用語解説は本文末、参考文献の前に入れるものとする。
- 2) 用語解説で説明される用語に関しては、文中、最終文字の右肩にダガー(†)を印すこととする。

2g. 参考文献

- 1) 文献引用の範囲は、それが必要かつ十分であるように留意する。私信のような一般の人が入手しにくい文献は引用することをできるだけ避け、その代わりに、それらの出所と具体的内容を本文中または脚注に簡潔に記すことが望ましい。
 - 2) 文献の引用は Abraham,¹⁾ Brubaker,^{2,3)} Cahn⁴⁻⁶⁾ などのように通し番号をつけ、論文の末尾に一括して示す。1つの番号には1つの論文が引用されることが望ましい。
 - 3) 参考文献の書き方は著者名、誌名、巻、年、頁の順とする。毎号頁の改まる雑誌については号数を入れ、巻数はボールドの指定をする。雑誌名の省略及び欧文の書き方は Journal of the Physical Society of Japan のスタイルを踏襲する。単行本の書名のうち日本語のものは『 』でくくり、欧文のものはイタリックの指定をする。日本語の場合は人名、書名とも省略しない。次の例の形式にならう。
吉田善章：日本物理学会誌 **48** (1993) 73.
T. Saito, *et al.*: J. Phys. Soc. Jpn. **54** (1985) 231.
C. N. Yang and T. T. Chou: *Proc. 6th Int. Symp. Polarization Phenomena in Nuclear Physics, Osaka, 1985*, J. Phys. Soc. Jpn. Suppl. **55** (1986) 53.
森 正武：『数値解析』(共立出版, 1973) p. 83.
G. F. Smoot: *Primordial Nucleosynthesis and Evolution of Early Universe* (Kluwer Academic, 1991) p. 281.
 - 4) 参考文献に文献の標題を入れる場合には、出典の書誌的事項の後にダッシュ(—)を入れ、そのあとに標題を記載する。
- 2h. 脚注：脚注は*¹, *², *³などの記号で記し、脚注と赤で書く。
- 2i. 表：表は表1、表2のように通し番号をつけ、説明文を続ける。また、他の文献から引用する場合には引用文献を記載する。
- 2j. 図、写真：図および写真には図1、図2と通し番号をつけ、説明文を続ける。図を他の文献から転載または修正して転載する場合には必ず出典を明記し、著者および発行者に転載許可を得ること。
- 2k. 校正：掲示板以外のものは著者校正を原則とするが、場合により省略することもある。
- 2l. 別刷：1a~1j, 1m~1oおよび1rの記事の別刷は50部を希望する著者に寄贈する。50部を超える部数を希望する著者に対しては、50部単位で別刷を作成し、50部を超える分については(1,100+8x)p円を著者負担とする。ただし、pは頁数(p≤3の場合はp=3)、xは50部を超える50部単位の希望部数、カラー印刷の場合は20%割増とする。その他の記事は原則として別刷を作らない。なお別刷には表紙をつけない。
- 2m. 他の文献からの転載：他の文献から文章、図、表をそのまま転載する場合は、著作権の問題があるので、必ず著者および発行者の書面による許可(自著の場合にも必要)を求めなければならない。
- 2n. 謝辞：必要な場合は原稿作成に関わるものに限定し、小見出しをつけずに簡潔に記載する。1g(最近の研究から)、1h(実験技術)以外は、研究資金の出所は原則書かない。

3. 著作権

3a. 会誌に掲載された寄稿等の著作権

会誌に掲載された寄稿・投稿等(以下寄稿等という)の著作権は日本物理学会に帰属する。著者は、当学会および当学会が会誌の利用を許諾した第三者に対し、本著者人格権を行使しない。著者は、寄稿等が、①第三者の権利を侵害していないこと、②二重投稿ではないこと、および③共同著作物である場合には、会誌への投稿を行うにあたり、当該共同著作物の他の著者全員の同意を取得していることを保証する。

3b. 会誌に掲載された寄稿等の利用

- 1) 会誌に掲載された寄稿等の全部または一部を他の出版物に転載し、翻訳し、あるいはその他の利用をしようとする者は、別表の基準に従って日本物理学会の承認を得、またその寄稿等が会誌に掲載されたものであることを明記(出所明示)し、著作者の了解を得なければならない。
- 2) 著者は、会誌に掲載された自分の寄稿等の全部または一部を学術情報として著作者自身で利用する場合には、別表の基準に従うものとする。
- 3) 日本物理学会は、いかなる媒体や手段においても、著作物の全部または一部を公開する権利を有するものとする。

4. 原稿提出先

113-0034 東京都文京区湯島2-31-22 湯島アーバンビル 8F

butsurei-toukou@jps.or.jp

日本物理学会誌編集委員長

問合せ先電話番号 03-3816-6201

(別表) JPSJ・会誌・大会概要集・大学の物理教育・JPS Conference Proceedings掲載論文 利用許諾基準

2014年4月改訂, 2011年8月改訂, 2006年10月改訂, 2005年10月施行, 2005年7月22日制定								
	許諾申込主体	利用対象	形式	媒体等	学会への申請	条件	学会への報告義務	注
1	著者	自己の論文の全部または一部	閲読が完了した「著者最終稿」の電子ファイル	個人のサーバ	不要	A, B, E, F	不要	個人のサーバとは、搭載された全内容について著者がアップロードや削除を他人の同意なしに行えるサーバを指す。
2	同上	同上	掲載物(電子ファイル)	研究者仲間へ電子的手段で配布	不要	C	不要	
3	同上	同上	掲載物(紙版, 電子ファイル)	研究報告書(不特定多数に配布しないもの)	不要	A	不要	
4	同上	自己の論文の図および表	無修正のまま	Review article	不要	A	不要	Review article 以外は、書面による申請が必要。
5	同上	自己の論文の全部または一部	閲読が完了した「著者最終稿」の電子ファイル	雇用機関のサーバ	必要[#1]	A, B, E, F	要(サーバ搭載のURLを連絡)	・雇用機関サーバとは、アップロードや削除を著者個人が直接コントロールできないものと言う ・営利目的の広告の場合は許可が必要
6	同上	同上	掲載物(紙版)	雇用機関の被雇用者の論文のみからなる論文集, 紀要, 本など: 雇用機関内部で使用または広報用だが非営利で無料配布のもの	不要	A	同上	・雇用機関外部への販売の場合には許可が必要
7	「著者または雇用機関」以外の第三者	掲載論文の全部または一部	掲載物(紙版, 電子ファイル)	本や論文, 論文選集(電子媒体を含む)	要	A, B, D	サーバ搭載の際はURLを連絡	・営利目的と判断された場合は、課金することもある
8	2次情報出版者	書誌情報など			要			条件(有料/無料など)は個別交渉

「条件A」: コピー権表示を含み一切変更しないこと。部分引用の場合は、完全な引用情報を付すこと。

「条件B」: JPSJ, JPS Conf. Proc. においては、JPSJオンライン版の当該論文にリンクすること。

「条件C」: 研究者個人宛の1対1の発送のみ。メーリングリスト、その他の複数宛先への一斉送信は禁止。

「条件D」: 著者の承諾も必要。

「条件E」: 掲載物(電子ファイル, 紙面のスキャンデータ等)のサーバ搭載は認めない。「著者最終稿」の搭載にあたっては、共著者の承諾を得ること。

「条件F」: 著者最終稿の場合も公開は電子版ないしは紙版の刊行後とすること。

注記

#1: 雇用機関が許諾申込主体の場合でも、著者本人からの許諾申込が必要。

#2: 複数の機関にまたがる研究プロジェクト(チーム)は雇用機関に準ずる。

#3: マイクロフィルム, CD-ROM等の電子媒体などは紙版に準じて扱う。

#4: 引用および引用情報を含む図や表などの論文の一部を転載する場合には、完全な引用情報を含んで転載すること。

#5: 利用許諾された論文等は、(共)著者および日本物理学会へ帰属する著作権を尊重して利用すること、また、サーバ搭載の論文を管理すること。

#6: 本基準は2011年8月1日以降の申請に適用する。

#7: 本基準について問い合わせや許可願いは右記までお願いします: JPSJ, JPS Conf. Proc.: permission@jps.or.jp その他: pubpub@jps.or.jp